

平成 14 年(ワ)第 19276 号 平成 15 年(ワ)第 6732 号 平成 16 年(ワ)第 104 号

損害賠償等請求事件

原 告 シヤムスリ 外 8 3 9 6 名

被 告 国 外 3 名

## 報 告 書

2004年5月3日

東京地方裁判所民事第49部 御中

原告ら訴訟代理人

弁護士 浅 野 史 生



当職は、2004年5月3日インドネシア共和国のリアウ州カンパル県ティガブラス・コト・カンパル郡バルン村において、アブドゥール カミール氏（原告番号：L203番）から下記のとおり聴取したので報告する（通訳人は坂井美穂）。

### 記

#### 1 身上関係等

私の名前は、アブドゥール カミール (ABDUL KAMIL) です。私は、1973年7月25日に生まれましたが、生まれてから現在に至るまでずっとインドネシア共和国のリアウ州カンパル県ティガブラス・コト・カンパル郡バルン村に住んでいます。私はまだ独身で、60歳になる私の両親と一緒にくらしております。

私は、4年前からバルン村の村議会の議長をつとめており、また、パカンバルにある国立大学において宗教学を専攻したことから、バルン村のイスラム系私立中学校で宗教学の教鞭をとっております。私の月の収入は、月60万ルピアであり、中学校の教師としての給料が月50万ルピアで、議長の給料は月10万ルピア

アです。

## 2 バルン村の概要

(1) バルン村の住民人口は、約1500人で500世帯です。村民の就労人口のうち約90%の人たちが農業に従事しており、残り的人たちは公務員などです。

バルン村で主に収穫される農作物は、ゴム、ガンビル、水稻です。水稻は自分たちで食べるために栽培しており、ゴム、ガンビルはタンジュン・バリッド村から12キロメートル離れたところのパンカランに出荷しております。なお、趣味で魚をとる人たちはいますが、漁業を職業としている人たちはいません。

(2) バルン村には公立小学校（第28バルン小学校）1校、イスラム系私立中学校（私立バルン中学校）1校があり、前述のとおり、私はこのイスラム系中学校の教師です。

## 3 コトパンジャン・ダムについて

私は、コトパンジャン・ダム建設により他の村においては、村民にさまざまな経済的に被害が出ていることを聞いておりますが、私の住むバルン村も被害を被った村の一つであります。

(1) バルン村に出入りするためには、マハット川の支流の川を渡らなければならないのですが、コトパンジャン・ダムができる前は、この川の幅は50メートルくらいで、深さはひざの高さくらいでした。したがって、ズボンをまくり上げれば簡単に徒歩で川を渡ることができ、また、車で川を渡ることもできました。そして、この川を渡ってバルン村の住民は、国道の方にいたり、昔のタンジュン・バリッド村にあったバザールに日用品などを買って行っていました。

(2) しかし、コトパンジャン・ダムが建設されると、この川の川幅が100メートルくらいになり、深さも25メートルくらいになってしまい、人間が徒歩で川を渡ることはもちろんのこと、車やバイクで川を渡ることもできなくなってしまいました。そこで、現在は、川縁に船着き場を作って、渡し船を使って川を渡っています。しかし、増水が一番ひどいときには国道沿いまで水につかり、船着場の建物の高さまで増水してしまいます。このときは、渡し船を使うこともできなくなってしまう。このようなことは、1年に少なくとも2回

起こり、完全に川を渡ることができなくなってしまって、私たちは、村に閉じ込められてしまいます。村に閉じこめられる期間は、ひどいときで1週間くらいになります。

(3) このように、バルン村に出入りするために川を渡ることが物理的に困難になったばかりではなく、経済的にも不利益な側面がでています。

① 以前では徒歩で渡ることができた川も、現在では渡し船を使わなければならないので、渡し船の料金がかかります。渡し船料金は、

車1台あたり15000ルピア（片道料金）

バイク1台あたり5000ルピア（片道料金）

人1人あたり2000ルピア（片道料金）

です。こうした料金は昔は払わなくてよかったです。そして、この交通費は、収入の額にもよりますが、平均して収入の10%程度が川を渡る交通費になります。私の場合も5万ルピア程度使っています。

このような出費は、かなり深刻な出費で、家計を圧迫しているのが現状です。というのも週に1回は日用品等の買出しに行かねばならないし、他の用事でどうしても村の外に出なければならない場合もあるからです。コトパジャン・ダム建設前は、日用品の買出しは、川を渡って、隣村のタンジュン・バリッド村のウサン市場に行っていたのですが、タンジュン・バリッド村が水没してしまったので、今は、川の船着き場から国道をとおって20キロメートルくらい離れたパンカラン村までいかなければなりません。そして、渡し船の料金もかかりますので、日用品の買出しについては以前と比べると二重の意味で負担になってしまいました。

② さらに、村に出入りするには交通費がかかるために、村に持ち込まれる商品の価格にその交通費が上乗せされ、物価高になってしまいました。たとえば、セメント（1カルン=50キログラム）は、ダム建設前は3000ルピアでしたが、今は4000ルピアです。また、米1キログラムの値段は外の市場（パンカラン）で5000ルピアですが、バルンの市場では7000ルピアです。コトパジャン・ダムが建設されてから価格が急騰してしまいました。そのた

め、日用品等の買い出しについては、住民は、少しでも安くするために外に買い出しにいています。

- ③ そして、住民が農業労働者として他の村に働きに行くケースが増えました。というのも、バルン村ではゴムやカンビルを栽培しているのですが、それを村の外に出荷する場合、川を渡るための交通費がかかってしまいます。しかし、交通費を出荷する農作物の価格に上乗せをすると、価格が高くなってしまい、売れなくなってしまいます。したがって、交通費を農作物の価格に上乗せすることはできません。結局、川を渡るための交通費は自腹を切らなければならず、利益はそれだけ減ってしまいます。

こういう状況ですので、わざわざバルン村で農作物を作って外に出荷するくらいなら、農業労働者として外で働いた方が手っ取り早いし、効率的だということで外の村に農業労働者として働きに行く人が増えてしまいました。しかし、このような人も、バルン村を出入りするにあたって、川を渡るための交通費を負担しなければなりません。

#### 4 最後に

私たち、バルン村の住民は、川を渡らなければ、外に出ることはできません。たしかに、バンキナンまたはペカンバルまでは陸続きですが、その途中が自然保護区になっているため道路をつくることはできませんので、道路がないのです。したがって、川を渡る以外のルートはないのです。しかし、前述のように、コトパンジャン・ダム建設によって、川水が増水し、徒歩でわたることはできなくなってしまい、交通費をつかって川を渡らなければならず、その費用は、バルン村の人たちの家計を圧迫しています。また、コトパンジャン・ダム水力発電所が建設されたにもかかわらずバルン村には十分な電気が供給されていません。

コトパンジャン・ダム建設によって私たちの生活は、以前よりも苦しくなりました。日本の裁判所におかれては、私たちのこのような実情を是非ともご勘案頂きたいと思います。

以 上